

令和3年度第1回 山梨県教員育成協議会

I 日時：令和3年7月19日（月）午前10時00分～午前12時00分

II 場所：山梨県防災新館 教育委員会室

III 出席者

委員 10人（敬称略）

小田切三男（会長）、古家貴雄、長谷川千秋、池田充裕、廣田健、永田清一、堀川薫、竹川和彦、永田典弘、若林正人

事務局 16人

教育監（義務）、教育監（高校）、理事、次長（総務課長事務取扱）、働き方改革推進監、義務教育課長、高校教育課長、高校改革・特別支援教育課長、保健体育課長、総合教育センター所長、義務教育課人事管理監、高校教育課指導監、総合教育センター次長、総合教育センター研修指導課長、総務課課長補佐、総務課主幹

IV 傍聴者などの数 1人

V 会議概要

1 開会

2 教育次長あいさつ

3 委員自己紹介

4 報告

（1）令和3年度「教員育成協議会」の体制について

事務局

資料に基づき、説明

司会

質問がないので、次に。

（2）経過報告について

事務局

資料に基づき、①令和2年度教員育成協議会の経過報告について説明。

事務局

資料に基づき、②令和4年度採用教員選考検査に係る改善点について説明。

事務局

資料に基づき、③総合教育センター関係について説明。

司会

質問がないので、次に。

5 協議

事務局

(1) 教員の養成・採用・育成に係る課題について

まず、資料に基づき、教員の養成に係る課題について説明（養成部会）。

委員

質問と意見。「山梨県で学校の先生になろう」フォーラムの開催について。昨年度までの課題を受けて、令和3年度の改善点がありましたら教えていただきたい。

また、大学生に向けて指導主事が講座を行うということだが、対象学年が4年生では、就活開始が3年生なので、ちょっと遅いのではないか。その点改善したほうがよい。

最後に期間採用者の研修機会はとても大切だと思うので、ぜひもう少し手厚くしていただきたい。

事務局

「山梨県で学校の先生になろう」フォーラムについては、この後協議事項として出てくるので、そちらで詳しく説明させていただき意見を賜りたい。

事務局

指導主事が大学での講義を持つというのは4年生では遅いのではないか。確かにもっともなことだと思う。本年度から大学と県教委で意見交換をする場・情報共有する場を作るので、そこで検討しセンターとも連携し改善していきたい。

期間採用教員に対する研修についてだが、センターと連携し検討を重ねたいと思う。

司会

ほかに養成部会の内容について・・・。

委員

期間採用者の研修機会の検討ということで、教育センターがここで年間3回やっているということか。期間採用者対象にこういう研修は、いつごろからやっているのか。もう随分前から・・・。

事務局

随分前からやっている。

委員

随分前からでとてもいいと思う。期間採用者に手を挙げている人たちは、学校の先生になりたいという希望が非常に強いと思う。恐らく、小学校とか中学校とか高校のときに自分が憧れて好きになった先生がいる。だからそういう先生の姿を見て、「私もになりたい」「僕もになりたい」という考えが、心の中に醸成されていると思う。期間採用者の研修機会でも、正採用の先生方が期間採用者を前に、いろいろな話をするのでしょ。そのとき一方的に聞くだけではなくて、期間採用者がどういう先生になりたいのかを、期間採用者に自分の言葉で発信させる機会を設けてほしい。自分が話すということは自分の言葉で相手に伝えるということ。伝えるためには自分の中にそれなりの言語に対する、言葉に対する責任が

なければうかつに言えない。相互に発信することによって、より醸成されるのではないかという気がする。これは実はとても大事なことだというふうに思う。

事務局

こちらにつきましても、確かにおっしゃるとおり受け身だけではこれからの教員は務まらないというふうに思う。センターと連携しながら内容の改善等に努めてまいりたい。

委員

「学校制度・経営論」で多くの指導主事の先生方からご指導いただきまして、山梨大学では本当に助かっている。学生たちもこの授業を受けて、より教員に対する具体的なイメージが付いてきたということで、建設的な意見をいつも言っている。この講義が3年次のほうが教員の魅力発信という点ではより良いのかもしれませんが。場合によっては1年生、2年生ということも考えられる。ただ、講義内容ということ踏まえると、3年生のときに小学校と中学校の実習を前期・後期で行っている。現場でのことを体験した上で、再び座学に戻り、こういう学校で必要なことを学ぶということに意味があるため、4年前期に配置している。そういう意味では、教員の魅力発信という点については、「山梨県で学校の先生になろう」フォーラムを活用する。高校、大学の中で、大学の中でも1年生から4年生まで見まして、その時々でニーズ、訴えかけるべき内容というのが違っているように思う。そういった高校から大学生までの中で、体験的にいつどんな形で教員の魅力を発信するかということ、今後共に考えていければいい。

それから、期間採用者の研修機会の検討について、期間採用者等研修を山梨大学附属教育実践総合センターで5月にやらせていただいた。本当に多くの学生、それから期間採用者の先生方に参加していただき、70名ほどの参加があった。講師の先生方は、学校の先生方が主に学級づくりに関する事、それから授業づくりに関する事をさまざま話していただき、とてもいい研修になった。ただ感じたことは、1回だけでいいのかということ。期間採用の先生方に、果たして必要なことをこちらがニーズを踏まえてやっているのかというところが、まだ見えていないところである。総合教育センターでも3回期間採用者研修をされているということだが、今後は必要な回数、それからニーズ把握。把握した上で、研修の回数等を検討していきたいというふうに感じている。

また、教員採用試験のタイミングを考えると、年度が始まってからではなくて、年度終わりごろに、教師になりたい気持ちというのは再確認して、お互いに話し合ったりする中で固めていくのがいいと思っている。

学生へのICT教育ということで、高校でやっている授業内容と大学で必修化されるICT教育というものの連携が必要。ぜひそういったことを踏まえたICT教育を検討していきたい。高校と大学の連携と棲み分けということを考えていきたい。

司会

I C T教育につきまして、高校「情報」の授業と大学で教えること、また小中学校で教えるI C Tというのはそれぞれ違うものでありつつ、まとまりがあるものにあるべきだろうという意見だが、事務局から何かあるか。

事務局

このような高校と大学の連携や住み分けについても、大学と県教委の情報共有の場を今年度新たに設けたいというふうに考えている。そういう場合に、ざっくばらんに話をしながら検討材料に上げていければと思う。

事務局

高校の新学習指導要領の実施により情報教育もかなり新しくなる。学んだ高校生が大学に入っていくということで、大学で求められていくものも変わっていく。高校の情報教育では子供の情報活用能力を育成する面も多いが、大学で教員養成という観点でI C Tを学ぶ部分では、情報活用能力だけでなく、I C Tを使って授業をどう展開していくのかという観点を共有したい。この部分は大学の課題でもあると思う。大学と連携をしながらこのI C T教育の研修機会といったところも、広めていければいいと個人的に感じている。意見交換の場がこれからより重要になってくるので、ぜひ現場の先生方や大学の先生方、教育委員会と情報共有を図ることを、実践していければいいと考える。

委員

期間採用の研修について。若手教員グローアップ事業、アドバンスティーチャーが巡回して授業を観察している。年間3回、4回、巡回して来てもらって授業を観察していただいたり、授業に具体的な課題を示しながら話を聞いていただいたりすることはすごく有効であったということを、多くの期間採用の方々が言っていた。学校にそれぞれ経験者が巡回して来てくれるということはすごく有効でありましたので、グローアップ事業等との関連も踏まえながら研修機会の充実を図っていただければと思う。

もう1点。代替の教員がなかなか研修を受ける機会がない中で、昨年から今年にかけてI C T端末の活用等が加速度的に進んでいるので、そういった研修機会等があればいいという声も聞いた。そのことも踏まえて大学との連携も含みながら充実を図っていただければありがたい。

事務局

研修につきましては、センターと課題等を検討しながら進めていかなければなりませんので、今伺ったことも教員の養成という観点でどのようなことが可能か。可能なことは取り入れて進めてまいりたいと思う。

司会

ほかに質問・意見等あれば。

委員

大学生の教育ボランティア、教育実習の受け入れについて質問を。高校の場合、ボランティア、教育実習の受け入れに関しまして、どのくらい入れていただけるのか。本学も母校実習はもうしないということで進めているが、多くのボランティア実習を受け入れていただけるのかどうか。

事務局

高校でのボランティアおよび教育実習の受け入れ等につきまして、まだ詳しい情報等、われわれも持ち合わせてないので、これから検討させていただきたい。

委員

高校の先生方から個別にご協力いただいて、受け入れていただいているが、正式なものとして広く出身校以外の学生もボランティア・実習を受け入れてもらえるという体制を作っていただけるとありがたい。県外の学生とか、特にコロナのこともあって今年帰れないので。

事務局

資料に基づき、教員の採用に係る課題について説明（採用・人事部会）。

委員

センター研修ポートフォリオの活用について、自分がこういう教師を目指したいから、どういう研修を受けていきたいかという視点から考えると、計画的なものではない気がする。記録という感じで、自分が今後どんな研修を受けて、どんな教員を目指したいという形式になるとすごくいいということを感じる。大谷翔平の目標達成シート、よく報道等されているが、先生たちが目標を持って研修に向かえるような、自分のキャリアを積めるような、そんなものになると非常にいいと思う。

事務局

現在、ポートフォリオをいかに活用できるかという視点で話をさせていただいたところである。振り返りをしながらこの先のことを考えていくということで、今先生がおっしゃるところが大変大事になるかと思う。

事務局

併せてお願いしたい。

私たちもこのポートフォリオについては、受講記録がただ記録に終わるのではなく、自分たちのキャリア形成に結び付く有機的な活用ができることをイメージし、働きかけていきたいと考えている。ご意見を初任者等に伝えていけたらと思う。

委員

今のポートフォリオをが、ぜひ先生方に活用していただく方向が良いと思う。自己観察書とポートフォリオがもっとつながる形のもので、一体化できる形があれば全員が活用もするし、次にどう取り組んでいくかという自己観察にもつながると思う。検討いただきたい。

司会

自己観察書とポートフォリオのつながりがあったほうがいいのではという意見だが、今のところで答えられる点があるか。

事務局

非常に大事な指摘だったと思う。自己観察書の目標設定する際に、ポートフォリオのこれまでの研修記録を振り返りながら、今年このようにチャレンジしていこうという目的を作っていけたらいいと捉えている。さらに有機的に結び付く方法ということについては、まだ私の中ではちょっと考えていない。

司会

採用・人事部会について、ほかに意見があるか。

それでは育成部会へ。

事務局

資料に基づき、教員の育成に係る課題について説明（育成部会）。

司会

協議（１）について、育成部会に関する話の話し合いをしているが、協議（２）GIGAスクール構想による教育環境の変化等を踏まえた対応についてと、重なるところある。この後の進め方について、事務局どのようにしたいか。

事務局

協議（２）の内容も含めた形で育成部会に関して意見をいただきたい。終わった時点で、まだ言い足りないという場合は追加で意見を、育成協議会の方向性も含めたところで意見をいただきたい。

司会

それでは、できるだけ含めながら話を進めたいと思う。質問・意見等は。

委員

ICT教育の研修についてです。GIGAスクール構想が前倒しになって、小中学校では1人1台端末をこの4月から進めている中で、市教育委員会では5月に学校訪問した。かなりの学校で、ICT活用が進められていた。その中で嬉しかったのが、若い先生が中心になってやっていること。新採用のときに本当に授業づくりに苦しんで、非常に悩んでいた先生が、ICTを活用しながら楽しい授業を作っているという姿が見られたこと。ICT教育は本当に可能性を感じる。若い先生ががんばっているので、どうやって進めていいか戸惑っているベテランの先生も若い先生から学び、非常に良くなっていると思う。あわせて、ぜひ研修もよろしくお願ひしたい。

それからもう1点、育成という意味で。教職を志して本当に夢と希望に満ちて教員になったが、いろんなことがあって目標を見失っていたり、傷付いてしまっていたりする先生が多く、学校にいる。学校を充実していくためには、そういう先生方をフォローアップし

ていくということ、それが現場ではものすごく大事なことになるかと思う。そういう視点もこれから非常に大事になってくるのではないかということを示し添えたいと思う。

司会

G I G Aの進行状況について、学校現場の状況を伺った。フォローアップの点についてはいかがか。

事務局

センターでも今ご指摘いただいた、いわゆる行き詰まりを感じている先生方をフォローアップする視点をもった研修について、検討して義務教育課、高校教育課とも連携しながら進めていきたい。

委員

育成部会に限らず、教職員の背中を押していただける施策等を大変よく考えていらっしゃる。現場の先生方にしてみれば大変喜ばしい。このことを多くの現場の先生方に浸透させたいと思う。そのために、学校や教育委員会へ県の施策について機会をみて報告をしたい。いろいろな意見を伺って、やはり今日来てよかった。連携することで効果が上がるということ。今日の会議で3部会からの提起があった。このことに、地教委はどのように関わったらいいのか。校長先生を含めて学校はどう関わったらいいのか。その方策について私たちが立てることも重要ではないかということも思った。

私の地元の地教委でも、研究会はほとんどリモートでやっている。それから講演もそう。講師は東京から画面を見て講演をしてくださっている。そういうことに乗って行けない教師もいる。その対策を教育委員会の私たちも考えなきゃいけません、学校レベルでも、地域レベルでも、そのことも含めて考えていきたい。そういう連携を、これからしっかりとやっていきたいと思う。

委員

I C Tの活用についてだが、教員の研修を計画していただいている。こういう目的でこの研修を行うとうたってもらえると、研修に入るときに「そうか」と思いながら、その部分を学ぼうということになるし、その学んだものを次に主体的なものにつなげていきたいということにもなると思うので、そのような形の研修のテーマをしっかりと掲げていただくと良いと思う。

それからI C Tの活用は、校種間を越えてどんどん進んでいく。校種ごとで、ある程度の目標を示していただくほうが、高校側でも中学校でこの程度はやるということを経験できるということになり、次につなげていけると思う。

最後にフォーラムに関することを。行うにあたっての課題としては、もうちょっと広くP Rできれば良いと思う。そのときに、ホームページ等で分かりやすく上げていくことが必要と思う。だから山梨県の採用試験の改善点についても、こんな利点があり山梨県の教員になるとこういうところが良いところをホームページでアピールしてほしい。「山

梨県で教員になりたい方に向けて」と書いてあって、クリックするとすぐに閲覧できる形で伝えることが、一番伝わりやすいのではないと思う。

司会

センターでも緑色の資料に方向性を示している。そのことも校内研修等に活用できるように、周知をお願いしたい。

委員

GIGAスクール構想でICTがすごく進んでいる。教員と話してみると困っている内容は、ICTを使うと便利な場面、子供たちが理解しやすい場面、どういう導入の方法があるのかということが挙げられる。われわれは今、地域教材を作っているが、その中でちょっとしたICT技術を使いながら、こんなことができるのではないかと模索している。教材作りの中からこのようなことができるということを示したほうが、教員がICTを使っていく上で、納得できるような在り方に繋がるのではないかと考える。

もう1つ。ICTを子供たちの活動する能力を育てるときに、物事の論理性や話し合いをする力といったコンピテンシーがきちっと積み重ねられている必要がある。

もう1つはリテラシー。例えば学生たちにあるものを調べさせると、正反対の情報を平気で繋ぎ合わせたりすることも時々あつたりするので、出ている情報の中をどういうふうに取り取っていくのか、ある意味では、ICTを取り巻くような技術や考え方というところを子供たちの活用能力の中で重視していくことが必要かと思う。

最後に、今の子供たちは小さいときから携帯を使っていて、デジタルネイティブと言われている。しかし、意外とわれわれよりも使えないところがあつて、普段フリック入力を中心なので、キーボード入力が遅い。他の例としては、携帯を開ければすぐつながるので、インターネットにつながるということに関しては、われわれの世代のほうがむしろ意外と認識している。そうした中で、デジタルネイティブと呼ばれている人たちの思考パターンそのものに注目した教育をしていかないと、このままでいくとICTの技術が使える教育になってしまい、活用していくことにつながらない気がする。うちの大学でもどう取り扱おうかということが議論になり始めたところである。

委員

ICTを使って魅力的な授業づくりを行うということが目標だと思うので、各教科でどんなことができるかということを示していくと、先生方もやってみようという気持ちになると思う。学校によって使っているアプリが違うので、Google Classroomではできるが、Teamsではできないのではということがどうしてもあり、そのことが壁になってしまっている。ぜひ、同じように扱うことができるということをご指導いただくと、とてもありがたいと感じる。

司会

道具としてどのように使うのかということが、かなりポイントになってくるので、このあたりについて、センターでも考えがあると思う。もし何かあれば。

事務局

ICTに関する研修内容について、体系化をしっかりしてほしい。これはICTのどの部分に関わる研修なのかということがわかるようにしてほしい。教員のICT活用能力を高めるための研修、ICTを使った授業づくりの研修というふうに体系化して、先生方がICTに関して自分はこの部分について学びたいということを考え、研修を選んでいただける仕組みづくりをしていきたいと考えている。

同時に、これからのICT社会を子供が生きていくための基礎づくりという内容も研修の中を含め、研修内容の構築をしていきたいと考えている。

事務局

気を付けていけないといけないのは、ICTを道具として先生方の授業に生かしていただくという視点だと思う。先ほど「ICTの活用と生徒の主体的・対話的で深い学びというのは、別のような気がする」という言葉があったが、生徒の主体的・対話的で深い学びを、ICTを使い、組み合わせながらやるという話だと思う。県教育委員会では、よく現場の先生や大学の先生方にもICTはツールであると伝えており、使うことが目的ではないという話をさせてもらっている。GIGAスクールで学校現場の先生方が慣れてきたら、授業だけの活用ではなくて、子供たちがノートや鉛筆を使っているように、端末を普段使いしていくことが起きてくると思っている。そのときに現場の先生方ないし市町村教育委員会の皆さまにお願いしたいと思っていることは、そういう新たな動きを止めてしまわないようにしていただきたいということ。先生方の指導力を生かしていくときにICTをどう使えばいいのかという方向に発想を向けてほしい。

研修でも、センターの先生方をお願いしていることは、ICTを単に使えばよいということではなくて、基本的には先生の指導力がベース。先生方の指導力があってこそ、ICTが生きるということをずっと話しをさせてもらっている。ICTについてはいろいろな先生方のお考えがあるが、共通認識をぜひ図って進めていきたい。県もそういったメッセージを出し続けていきたい。先ほど委員からも、いい取り組みを学校とか地域の現場で共有をという話をいただいた。われわれも後押しをし続けていきたいと思っているので、ぜひこういったコミュニケーション等、また学校現場で起こっていることを教えていただければありがたいと思っている。

委員

先ほどの発言の中でちょっと誤解されたこともあるかもしれませんが、基本的にはおっしゃるとおりで、基本の部分を忘れて、「これをやらなきゃ先生じゃないよ」という意見は論外。そこは私もぶれたくない。

事務局

資料に基づき、「山梨県で学校の先生になろう！」フォーラムについて説明。

委員

できれば2回、高校生と大学生に分けたほうが良いと思う。やはりニーズが違う。高校生は、そもそも教職とはどういったものなのか。あとは教師にはどのようなやりがいがあるのかということが必要。大学で教員養成系ではどのような授業とか、どのような教師になっていくのかということ。そういった場合の情報提供については、大学の教員が協力できるので。大学生については、現在の課題みたいなものから入り、教師の一日や待遇面も含めてもうちょっと立ち入ったもの、実際に教師になったらどんな課題があって、それをどう解決するかとか、教師のやりがいと共に大変なところも教えると。

それから、対面で行う場合は、図書館とか交通機関からの距離が近いところでやったほうが良いと思う。

委員

私も会場は、県立図書館が良いのではないかと思います。1回目に図書館において対面で行ったとき、学生の満足度も非常に高かった。対面で先生と直接接するほうが良いのではないかと考えると、やはり県立図書館でやっていただくほうが、学生、生徒は助かるかと思う。

事務局

今の意見等を含めまして検討させていただきたい。

6 報告・連絡

事務局

次第に掲載されている内容に基づいて報告・連絡。

7 閉会